

令和5年度 竹田教育事務所 重点方針

1 学校マネジメントの深化(カリキュラム・マネジメント)

- コロナ禍で得られた知見を「共有知」として教育活動を推進
- 「学校マネジメント4つの観点」に基づく学校マネジメントの深化
 - 観点Ⅰ：育成を目指す資質・能力を明確にした学校の教育目標設定・見直し及び重点目標等の設定、家庭・地域と共有
 - 観点Ⅱ：短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施
 - 観点Ⅲ：主任等が効果的に機能する学校運営体制
 - ◇ミドル・アップダウン・マネジメント
 - ◇効果的・効率的なチーム体制の構築
 - 観点Ⅳ：学校・家庭・地域による目標の共有・協働
 - 「地域とともにある学校」への転換に向けた学校運営協議会の推進
 - 「学校評価の4点セット」を家庭・地域と共有及び学校の取組への参画
 - 推進部会の実働による学校・家庭・地域の役割分担の明確化・適正化
 - 学校における働き方改革の推進
 - 年次計画で業務改善を進める「1改善運動」の着実な実施
 - 部活動改革の推進
 - ICT・校務支援システム等を活用した校務効率化の推進
 - マネジメントツールを活用した教育課程レベルでの校種間連携の推進
 - 「学校評価の4点セット」による校種間連携の推進
 - 小学校のスタートカリキュラム活用による幼保こ小連携の推進



子どもたちの
力と意欲の向上

2 授業改善の徹底

- 「新大分スタンダード」を意識した単元構想に基づく主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - 1時間完結型(「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定)
 - ◇育成を目指す資質・能力を明確にした単元計画の作成
 - ◇視点を設け、深い学びにつながる「振り返り」の実施
 - GIGAスクール構想の実現に向けたICT(1人1台端末)の効果的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
 - 習熟の程度に応じた指導
 - ◇「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
 - ◇「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫
 - 板書の構造化及び板書とノートへの一体化
 - 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開
 - 小学校教科担任制の推進
 - 自立した学習者の育成(校内での取組推進)
- カリキュラム・マネジメントの充実
 - 教科横断的な単元配列表の作成及び活用、検証・改善の実施
- 特別支援教育の視点からの授業改善
 - 通常学級に在籍する教育的支援を必要とする児童生徒に対する「個別の指導計画」の作成及び活用、検証・改善サイクルの実施
 - 通級指導教室担当者の専門性の向上



3 体力向上の推進・健康課題への対応

- 運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進
 - 「新大分スタンダード」に基づいた「分かる」「できる」「楽しい」授業づくりの推進
 - ◇小学校体育専科教員、小学校体育担任制専科教員、中学校体育推進教員の活用促進
 - 「1校1実践」の短期検証・改善の推進
 - ◇学校全体で組織的・計画的に実施
 - 課題のある項目を中心とした体力テストの再実施による取組成果の検証・改善
- 生活習慣・食習慣の改善とフッ化物洗口等の取組拡充
 - 養護教諭と栄養教諭が連携した歯みがき指導、食に関する指導、フッ化物の活用の3本柱で進めるむし歯予防対策(むし歯治療の奨励)



4 いじめ・不登校対策等の推進

- 組織的ないじめ・不登校対策等の推進
 - 地域児童生徒支援コーディネーターや教育相談コーディネーターを中心とした校内対策委員会等の組織的取組の徹底
 - 短時間で継続的に実施する「人間関係づくりプログラム」等を活用した「居場所」や「絆」を意識した学級づくり
 - 「人権尊重の3視点」による人権の授業づくりの推進
 - ICT機器等を活用した不登校児童生徒の学ぶ機会及び繋がりの確保
- 専門スタッフの効果的活用や関係機関との連携強化
 - SC、SSW、SL等の活用促進や教育支援センター等との連携強化に向けた情報共有
- 子どもの貧困対策の推進
 - 市教委、福祉等関係機関、子ども食堂等との連携

